

# 緑陰通信 ～図書館に行こう～

News from the shade of trees

宮崎県立図書館

検索

- 夏休みイベント報告①「みやざきに伝わる話や歌を学ぼう」
- 夏休みイベント報告②「農畜水産業夏休み特別企画展」
- 本物を朗読会～その二～（郷土資料より）
- 夕闇の朗読会&図書館ミステリーツアーについて
- 編集後記

【連絡先】  
 宮崎県立図書館 総務・企画課  
 TEL:0985-29-2956



## 夏休みイベント報告①「みやざきに伝わる話や歌を学ぼう」

宮崎県は他県に類を見ないほどの言語文化の宝庫であり、神話・伝承や昔話、自然の素晴らしさを歌った歌や民謡等が現代に伝えられてきています。宮崎県立図書館では、本県の言語文化の継承・発展活動や読書活動の普及活動を推進し、先人の知恵や教えを踏襲することを目的に子どものための言語文化講座「みやざきに伝わる話や歌を学ぼう！」を開催しました。7・8月に開催された4回の講座の内容をご紹介します。

### <第1回：「みやざきの神話・伝承を学ぼう」 7/27実施>

第1回目の講座では、宮崎市神話・観光ガイドボランティア協議会会長の岡田勝運さんが、みやざきに伝わる神話・伝承を分かりやすく教えてくださいました。始めは、挿し絵を見せながら、イザナキ・イザナミのものがたりの素語り（ストーリーテリング）。10分以上ある話でしたが、岡田さんの上手な語りに参加した皆さんも聞き入っていました。講座の後半では、青島を舞台にした海幸彦と山幸彦の話を、数名の小学生と大人の方に読んでいただきました。皆さん、初めてにもかかわらず、とても上手に読まれ、拍手喝采でした。



- ・昔の人のすばらしさ、ロマンを感じ、感動した。古事記を読んでみたい。
- ・宮崎に伝わる神話を訪ねて神社を巡ってみたい。
- ・宮崎に来て2年になるが、さすが「神の国」だと思った。
- ・とても楽しく神話を知ることができた。



みやざきの神話を説明する岡田さん

### <第2回：「みやざきの文学を学ぼう」 8/4実施>



朗読に合わせてカルタどいをしている様子



第2回目の講座では、若山牧水延岡顕彰会会長の塩月真さんが、若山牧水のことを中心に、みやざきに伝わる文学を分かりやすく教えてくださいました。始めに、みやざきの文学者の話をされた後、若山牧水の代表的な短歌にまつわる話や生まれてから亡くなるまでの足跡等についてくわしい話をしてくれました。講義の後半では、牧水の代表的な短歌10首を塩月さんと一緒に、参加者にも実際に朗詠に挑戦してもらいました。塩月さんの朗詠は、その場の情景が浮かび、牧水の心情がしみじみと心に染みわたり、参加された方々もうっとりとして聞いていました。また、朗詠にあわせた牧水カルタとりを通して、楽しいひと時を過ごすことができました。

- ・塩月先生の素晴らしい朗詠に心うたれた。
- ・牧水について学んだ昔を思い出し、なつかしくなった。
- ・カルタとり、子ども達も本当に楽しい様子でした。
- ・若山牧水のことについて知れたので、とても勉強になった。

### <第3回：「みやざきの歌や言葉を学ぼう」 8/10実施>

第3回目の講座では、椎葉綾心塾塾長の綾部正哉さんが、みやざきに伝わる歌や言葉を尺八やCDの演奏を聴きながら、分かりやすく教えてくださいました。オープニングでは、宮崎の県民歌を声高らかにみんなで歌いました。講座の前半では、それぞれの子守唄や民謡の良さや違いについて説明していただき、歌に込められた思いについて学ぶことができました。後半は、郷土の偉人の言葉です。高木兼寛の「病気見ずして、病人を診よ」安井息軒の「一日の計は朝にあり、一年の計は春にあり、一生の計は少壮の時にあり」岩切章太郎の「大地に絵を描く、心配するな工夫せよ・・・」などの郷土の偉人の言葉を、様々なエピソードを織り交ぜながら説明していただきました。



- ・宮崎県や地元のことでも知らないことがたくさんあると思った。
- ・このような講座はこれからの時代とても大切だ。
- ・宮崎県民歌を初めて聞いた。友達に教えてあげたい。



ひえつき節を尺八で  
演奏する綾部さん

### <第4回：「みやざきの民話を学ぼう」 8/18実施>



第4回目の講座では、宮崎県語り部の会会長の寺原重次さん、会員の林都子さん、赤澤照野さんが、みやざきに伝わる民話を語ってくださいました。講座の前半では、寺原さんが宮崎市の跡江に伝わる「半びどん」を、林さんが佐土原の那珂に伝わる民話を、赤澤さんが門川に伝わる民話を語ってくださいました。3人の語りは、方言もそれぞれの地域の特色があり、話の内容も面白おかしいものや悲しいものなど、それぞれのよさがにじみ出ていました。後半では、6名程度のグループに分かれて、民話語りにも挑戦し、皆さんの前で発表しました。子どもから、おじいちゃんやおばあちゃんまで、様々な世代の参加がありましたが、老若男女全ての方の語りの持ち味が発揮されて、素晴らしい発表会になりました。

みやざきに伝わる  
民話を語る赤澤さん

- ・宮崎弁は響きがいい。大切にしたい。
- ・子ども達が自分の町の語りができるようになるとすばらしい。
- ・自分たちも話せたこと、参加したことが良かった。



## 夏休みイベント報告②「夏休み特別企画展」

8月に、農畜水産試験場による「夏休み特別企画展～みやざきの『食』と『みどり』に触れよう！」を開催いたしました。みやざきの農畜水産業に関連する素晴らしい展示（七夕マンゴー、ジャンボかぼちゃ、魚たちが泳ぐ水槽など！）の他に、多くの関連イベントが行われました。その関連イベントの様子をご報告いたします。

#### フラボール体験



漁具「ピン玉」に網をかけていく体験。カラフルなフラボールの色を選ぶのも楽しそう！職員の方がやさしく教えてくださいました。

#### 鶏の卵の孵化の仕組み



卵の孵化を観察する体験ですが、同時にひよこに触れる体験もできました。手の中で丸くなってねむるひよこたちに、子どもも大人もメロメロ！1時間以上もだっこしている参加者もいました。

#### チリモン

チリメンジャコの中に入っている小さなタコや魚を探す体験です。辞典を使って、水の生き物などを調べたり・・・親子で楽しく探している風景をよく見ました。



#### タッチフール



ナマコやウニ、エビなどに触れる体験。初めは恐る恐る水槽に手を入れていた子ども達ですが、5分もすると慣れて、ナマコをぎゅっと握りしめていました。ナマコのさわり心地は・・・？

#### 参加者の声

- ・あまり見てみる機会のない牛の胃の中の微生物が見れて良かった。貴重な経験になり、子ども達もとても興味をもっていた。
- ・浮き球づくり楽しかった。係の方が優しく丁寧で良かった。
- ・子どもが海の生き物に興味をもって触れあいを楽しんでいたのが良かった。
- ・いつも食べているチリメンの中にいろいろな魚がいてびっくり！

#### 牛の消化のしくみ



顕微鏡をのぞいて、牛が草を消化するためのルーメン細菌を観察体験。

# 本物を見る～その2 (郷土資料より)

本館では、毎年古文書解読講座を開催しております。開講に際しては、広く学習する人々のニーズに対応できるように、古文書の読み方をわかりやすく解説いたします。また、古文書や古典籍を所蔵しており、それらの資料から選んだ原書の解読「文」を先ず、その

【右の文の読み下し】

五日 蔭

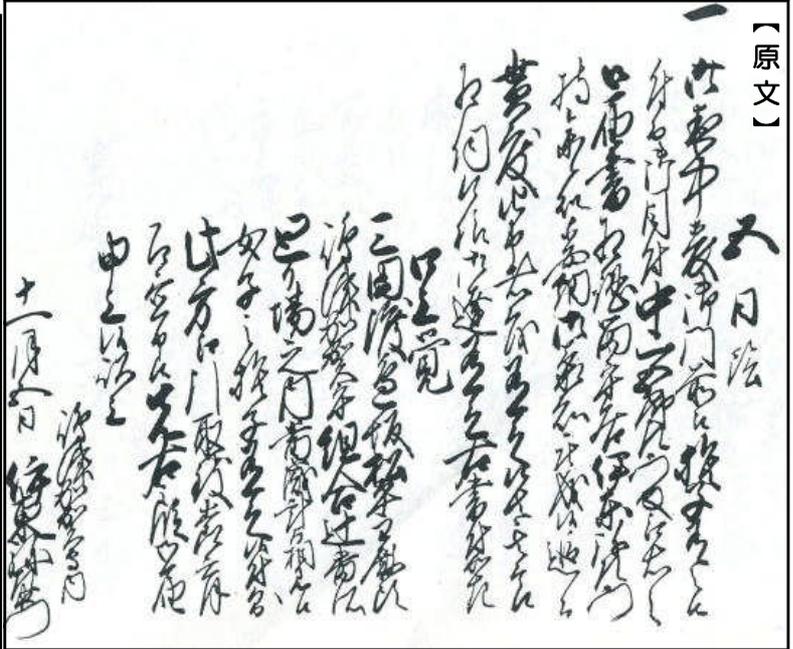
一昨夜中、表御門前へ捨子これ有候に付いて、御目付中山五郎左衛門殿へ右の御届書相認め、留守居伊東弥左衛門持参候処、委細御承知成られ候、追て貰いたき由申す者もこれ有候はば、その節相伺い候様御達しこれ有、右書付左の如し

口上覚

三田渡邊坂、松平主殿頭・島津加賀守組合辻番所廻り場の内、当歳ばかりと相見え候女子の捨子これ有候に付、則此の方へ引取り、養育致し召し置き申し候、先ず右之段御届け申上げ候、以上

十一月五日

島津加賀守内  
伊東弥左衛門



【現代語訳】

五日 くもり

昨夜中、表御門に捨て子があったので、幕府お目付中山五郎左衛門殿へ次のお届け書を認め、留守居役の伊東弥左衛門が持参したところ、委細承知なされた。そして、「その内に貰いたいと申す者があるだろうから、その節また伺うように」と言われた。届け書きは次の通りである。

口上覚

三田渡邊坂、松平主殿頭・嶋津加賀守組合辻番所廻り場に、今年生まれただけかりと見えます女子の捨子がありましたので、早速此方へ引き取り、養育いたし、召し置いております。先ず、右の段お届け申し上げます。以上

十一月五日

嶋津加賀守内  
伊東弥左衛門

ご紹介した資料は、本館蔵「佐土原藩嶋津家日記」(延享4年11月)の一部です。佐土原藩が江戸屋敷にて、捨子の面倒を見ていたという人情味あふれる大変興味深いエピソードですが、その他にも、藩主の葬式の取り仕切り、大名への献上品についてなど、藩の日々の出来事が記載されています。各藩には、日々の藩主の動向や、藩政に関する事件などの記録を担当した人々いたのです。

# 夕闇の朗読会 & 図書館ミステリーツアーについて

<暑い夜にうってつけの『夏に読みたい本』と『夜の図書館にまつわる秘密』をご用意してお待ちしております>

平成23年7月31日(日)の閉館後、夕闇の朗読会 & 図書館ミステリーツアーが行われました。中学生11名が参加してくれました。今回はその様子についてご報告します。

## ★夕闇の朗読会★

薄暗い児童室のおはなしの部屋で、夕闇の図書館司書が話したのは、アイルランドの話の語り。きりりとした語り口が、朗読会の雰囲気盛り上げました。次に「こっそりどこかに」の絵本をよみきかせ。絵本?とあなどってははいけません。夕闇の中「ひるまみえないもの」がみえている絵に、この後に行われる図書館ミステリーツアーのことを考えた人も多かったはず…読み手が代わり、今度はエレベーター物と人形物の怪談を朗読。夕闇の中での朗読は雰囲気が違って、一段とこわがっていた参加者でした。



## ★図書館ミステリーツアー★

青少年わかばコーナー移動後、ミステリーツアー開始。簡単な説明になるはずだった、「体調が悪くなった人はエレベーターを使って降りてきて下さい」の話に過激に反応した参加者達!

「図書館にまつわる秘密(?)」を聞いた後、参加者達は身体を張り、指令どおりがんばって行動してくれました。

様々な所から現れる、「ひるまみえないもの」たち…「ここにいた!」「いやいなかった!」情報が錯綜する中、すべてが終わり、ほっとしたところに現れる、何者かの姿…

驚 驚 驚…

ミステリーツアー終了後はみんなで記念写真を撮り、興奮と楽しさの中での別れとなりました。



## ○●○夕闇の朗読会プログラム○●○

- ★お話を知らなかった若者  
～「子どもに語るアイルランドの昔話」  
こぐま社
- ★こっそりどこかに～軽部武宏/作 長崎出版
- ★箱の中～「黒い本 ついてくる怪談」  
緑川聖司/著 ポプラ社
- ★メリーさんの電話～  
「うらからいらっしゃい 七つの怪談」  
斉藤洋/著 偕成社

## <本の紹介> (メリーさんの電話)

隆司は、幽霊や妖怪が好きな小学生。兄が通う大学の教授、西戸先生にまねかれて、ひと月に一回の「怪談クラブ」に参加しています。毎回テーマが決まっています。今回は「人形」をテーマにした朗読でした。

隆司はクラブを楽しんでいます。このクラブ自体が何か変なのです。兄は、大学に西戸先生はいない、と言います。

「ひとりでいらっしゃい」の続編です。

## 編集後記

今回は、夏休みに行われたイベントの報告を中心にお送りいただきましたが、いかがだったでしょうか? 図書館では、このような楽しいイベントをこれからも計画する予定です。

さっそくですが、11月3日文化の日には「みどりの図書館フェスタ」を開催いたします。秋の読書週間の記念イベントとして行われるフェスタでは、読書に関する様々な楽しい催し物をたくさん用意していますので、ぜひ、11月3日は県立図書館に遊びに来てください。

なお、今回の図書館フェスタでは、スタンプラリー & お楽しみ抽選会を実施します。当日の催し物に4つ以上参加した人には、景品があたる「お楽しみ抽選券」をプレゼントしますので、ぜひご家族、お友達でご参加ください。

次回の緑陰通信ではこの「みどりの図書館フェスタ」の様子をお知らせいたします!